

り減退する。通気度は20時間洗たく後毛は約50%減少し、化繊混紡布はいずれも大きな変化はない。収縮は縦方向が大きく毛はブロードを除いて大差なく8~3%以下で横は約3%以下であった。

B-19 おむつカバー用起毛布の洗濯による物性の変化について

福岡女大家政	平松	園江
	上村	元子
中村学園短大	○八川	久代
西南女短大	新村	律子

布製おむつカバーの利用は次第に増しているが、カバー布の防水力は最初から充分でない物や洗たく、着用で著しくへる物がある。また、カバーは清潔向上のため今後一層洗たく頻度を増さねばならぬ。洗たく労力節減から機械洗いが望まれるので、機械洗いによるカバー用ネルの防水を主とした物性変化を調べ、カバー縫製業者の用布選定条件の設定や保育者のカバー選択や取扱いの基本を明らかにするよりどころとする目的で本実験をした。

試料は毛、毛・合繊混、レーヨン・合繊混の6種ネルで、洗たく条件はN社280渦巻弱、洗剤はD社合洗0.2%、液温 $20^{\circ}\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、浴比1:30、洗たく20時間時間を6段階、本洗い後すすぎ押し絞り自然乾燥した。防水は耐水度法(ショッパー)と荷重下ぬれの電気的防水度測定。通気はフラジール形法。収縮は定法によりいずれも原布と比較した。

結果は防水度変化は二方法において異なった結果がみられ、カバー用布は実際に近い荷重下の電気的防水度測定法がよい。耐水度法によれば毛は洗たくによる防水力の減退はほとんどみられず合繊・レーヨン混等は0.5、2時間で著しく減る。荷重下測定ではいずれも洗たくによ